

本日ここに、東京都合板組合連合会主催による新年合同賀詞交歓会が盛大に開催されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

また、令和6年能登半島地震により亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。林野庁では地震発生直後から職員派遣や現地の被害状況調査を実施するなど、支援に取り組んでいるところであり、被災地の一日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいります。御列席の皆様方におかれましても、資材の供給等について、格別の御協力・御配慮のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、戦後、先人の手により造成された我が国の人工林資源が今、まさに利用期を迎えております。この豊富な資源を持続的に管理利用し、地域の林業・木材産業を成長発展させるとともに、2050年カーボンニュートラルに寄与するためには、「伐って、使って、植えて、育てる」という循環を確立することが重要です。

このため、林野庁では、森林・林業基本計画に基づき、2050年カーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現に向けて、再生林の着実な実施など森林資源の適正な管理や木材産業の競争力強化、都市における「第2の^{もり}森林」づくり等の施策を進めております。また、令和3年に改正された「都市^{まち}の木造化推進法」の下、公共建築物だけではなく民間建築物にも対象を拡げて、建築分野におけるより一層の木材利用の促進に取り組んでいるところです。

また、我が国の社会問題とも言える花粉症については、昨年10月に開催された関係閣僚会議において「花粉症対策 初期集中対応パッケージ」が取りまとめられたところです。スギ人工林の伐採・植替え等の加速化とともに、スギ材の需要拡大も重要な施策として位置づけており、令和5年度補正予算も活用しながら、しっかりと取り組んでまいります。

合板は、他の木質部材と比較して製造時の歩留まりが高く、また、建築物等への利用を通じて長期間炭素をストックすることにより、脱炭素社会や循環型社会の実現に大きく貢献できる資材です。合板業界の皆様が国産材の活用に取り組んでいただいた結果、国内で生産される合板の国産材率が9割を超えるに至りました。皆様が国産材の需要拡大に大きな役割を果たされておりますことに改めて敬意を表しますとともに、更に取組が進みますことを願う次第です。

結びに、本交歓会の御盛会と御列席の皆様方の益々の御発展、御健勝を祈念し、お祝いの言葉といたします。